

今月第22号は今期EMC事業主任を務めました小野 勲紘(西宮)から御礼と纏めをお届けします。



NGT98への熱き願い、永遠に “Y's Men's Windows 100(→2022)”を夢見て

2018-19年度西日本区 EMC 事業主任
六甲部 西宮クラブ 小野 勲紘

1. はじめに

今期の EMC事業につきましては、皆様にはご支援を戴きありがとうございました。振り返りますと数字として十分な成果には至りませんでした。遠藤西日本区理事、中井国際・交流事業主任とご一緒に2度目のお務めをさせて頂きましたが、EMC 事業について、たしかに今一步深耕出来なかった部分が残っております。しかし、こういった試練は、そのまま見過ごすのではなく、今後の活動に生かすことにより、展開は必ずや成長の糧となるものと信じております。

従って、今迄出来なかったことを見逃すのではなく、今後の活動に出てきた問題点を掘り下げて、より鮮明に挑戦して行く姿勢が必要でしょう。その一つが「ワイズ将来構想特別委員会」でも取り上げておられる、「**質量ともに相俟った活動**」でしょう。この「**質**」とは。言うまでもなく、その一つとして「**例会**」そのものの質があげられます。「**楽しく有意義な例会**」は、当に他の用はさておいてでも何としても出席したくなる、いや機会を逃すわけには行かない優先される例会作りのことです。それは即ち皆様の生活やお仕事の中での優先度(プライオリティ)の問題です。優先順位には必ず価値観が伴います。皆さまのワークライフバランスに中でワイズの価値観を高めていただきたい。

また「**量**」とは「**会員数**」や「**出席率**」、「**充足率**」のことでもあります。使い古した言葉ですが、やはりワイズの基本は毎月の「**例会**」です。それも「出席第一主義」です。しかし、それが嫌々出席している例会では、充実満足度を満たすことは出来ません。全員が何らかのキャストを演じて自ら作り上げる「例会」という舞台に、我々一人ひとり出演する俳優なのです。配役にはそれぞれの個性が魅力になります。人任せにしたり、「どうせ自分なんか・・・」というところに、出席が遠のく原因となるのかも知れません。一人ひとりが「**満足感を得る**」例会には、いよいよ今期主題とした「**NGT**」の役割なのです。

2. NGT98の展開と今後の課題

さて、今期の活動は一応の終結を迎えました。しかし、ワイズの活動はまだまだ弛みない活動を継続していきます。ではワイズの活動を継続していく上で、どのようにして満足感を得ていくのでしょうか。

① NGT98キャンペーンの展開

今期は今までの活動とは、やや気分を変えて、タイトルにもありますように、「NGT98」、即ち賑やかな例会に、G元気で若々しく、T楽しいお友達を、98人お招きしましょう」との主題のもとに活動を展開してまいりました。この試みは前回(2015-16年度にも設定いたしました、「Y's Men's Windows 100(→2022)」のコンセプト)の継続に他ありません。それは、ワイズ100周年の2022年には、「100クラブ+2022名」を期待するものです。私たちはその意思と活動を次の世代に継承していく義務を持っております。

② 各部における成果

多くの部、クラブにおいて、その趣旨通り活発な例会を企画していただき、多くの仲間を集めていただきました。しかし、全ての部・クラブにおいて満足のいく進展というわけではなかったようです。そこにはメンバーの増員にやゝ停滞感を感じる部やクラブもあったということです。その中にある新しい会員を増やし、新しいクラブをチャーターされる活動は素晴らしいものがあります。特に中部、京都部、六甲部、九州部においては、大きな成長と新しい仲間をお招きすることが出来ました。

中でも中部では、名古屋東海クラブにおいては一挙に5人の増員があったり、長年苦労されて夢であった新生とやまクラブがチャーターしたり、九州部においては熊本五福クラブを立ち上げて戴き、希望の星となりました。また京都部においてはEMCシンポジウムを2回開催されたように、活発な活動で500人を大きく上回る大きな増員となっています。加えて多くのクラブにおいて活発な例会を開催いただき、ゲストを集めていただきました。中西部においては、増員は少なかったものの、永年活動されて鬼籍に入られて退会に至った功労のメンバーが多い中、京都部と同様に2回のシンポジウムを“交流”に重点を置くなど趣向を変えて開催いただき、皆様の士気を高めていただきました。直前期に西日本区大会を開催した六甲部においては、その余力を駆って、着実な努力で8クラブ全てのクラブにおいて増員があり、合計10名以上の増員で、希望を次期に繋いでおられます。

九州部においては、新たに熊本にしクラブのスポンサーにより、「熊本五福クラブ」のチャーターが実現し、部会において明るいスタートを切られました。一方、既存クラブの中では構成メンバーの異動が激しく、全体の数を増員させるには至っていないことは今後の課題となるでしょう。

③ 達成出来なかった課題と問題点

西日本区全体では、いくつかの部やクラブにおいては、中々醸成せず、ますます高齢化と停滞感が強まり、長い歴史の役割を終えて収束に向かうクラブが散見されるのは残念なことです。中部では四日市クラブ、金沢犀川クラブ、阪和部では大阪堺クラブ、瀬戸山陰部では鳥取クラブが2019年6月末を以って解散とお聞きしております。ただし、大阪堺クラブは大阪泉北クラブに合流して、活動は継続されるとのことで、希望は残っています。

一方、びわこ部、阪和部、中西部、瀬戸山陰部、西中国部においては大きな増員が見込めない状況です。こういった部やクラブの特徴としては「例会の出席率」が今一歩伸びない傾向が共通しています。そういった中でも「NGT98」を主題としたところに狙いがあるのです。人数が伸びないクラブはまずは、例会の出席率を上げることに専心して下さい。

④ 夢の実現に向けて

N賑やかな例会作りは、そここのところに狙いがあるのです。例えばメンバーが5人であっても、夫々のメンバーが己と使命と役割を全うして、仲間を招いて賑やかな例会を開催いただいている限り、いずれは充実したメンバー数と交流の活発な例会に成長することでしょう。そんな例が今期の金沢犀川クラブです。メンバー数は5人、それもお1人は広義会員で常時活動出来るのは4人、それでも金沢犀川クラブは充足率でなんと脅威の320%を達成して、今期の目標でもあるNGT充足率1位の「最優秀充足率クラブ賞」を受賞されました。そんな希望を残すクラブが今期長い歴史に終わりを告げることは残念なことです。とやまクラブが15年の歳月を経て蘇ったように是非また仲間に戻ってきて下さい。

このように実質メンバーの少ないクラブは、出来れば近隣クラブやDBCクラブなどとの合同例会を開催して士気を高めて下さい。そこには仲間や友人を招くことで、希望は広がります。ただいくら5人でもクラブが設立出来るとはとってもメンバー数は士気に大いに影響します。心身ともに元気で、健康で心温かいところにはワイズの花は咲きます。皆さん是非、お互いが思いやりを持って、助け合うところに、**G元気で若々しく**、結果として、**T楽しい仲間**が集うことに繋がりますので希望は持ち続けましょう。

そんな中、希望の星も生まれております。びわこ部においては永年の夢である“琵琶湖ネックレス構想”の完成形として、予てよりびわこ部においては「琵琶湖西岸に新クラブを」との構想を持って活動されていきました。そこに、今期新クラブチャーターの夢が実現に向けて、始動しはじめました。まずは5月16日に近江今津においてスポンサークラブの長浜クラブ移動例会が開催さて準備が進められています。当日長浜クラブの入会式も持たれました。順調にいけば2020年6月の新クラブチャーターを目指しておられます。皆さまの部、クラブにおいても新クラブ設立の夢を育て下さい。ワイズメンズクラブは高齢化に対して、新しいクラブをスタートさせて世代交代は喫緊の課題です

3. 小さな「津波」から大きな「地震」を予知する気迫と感性を、未来への育成の糧へ

このように大変なパワーで新クラブをチャーターしたり、新しい仲間をお招きする活動の一方、皆様は簡単なパワーで去って行かれます。解散したり、退会するには必ずやその「動機」があるはずで、それを見逃さず今後の対策に生かしていただきたいのです。多くの部、クラブにおいて、その趣旨通り活発な例会を企画していただき、多くの仲間を集めていただきました。しかし、このところ全ての部・クラブにおいて満足のいく進展というわけではなかったかもしれません。遠くで起こった地震はやがて大きな津波となって被害をもたらすことは、先の東日本大震災でも露見されました。天災は忘れた頃にやって来るものではありません。常にそばまで来ているのです。小さな地震(ちょっとしたワイズでの心がけや、心の動揺)は蓄積されると大きな津波(退会や解散)という被害をもたらします。小さな地震に対する日頃の用心対策が大きな津波を防ぐことが出来ると思われれます。

4. 人生における自己実現の場としてのワイズと、EMC 事業通信特別号への感謝とお願い

私は EMC 事業主任を2度経験して、改めて「一身上の都合」の中に、無味乾燥な寂しさを感じると書きましたが、本当は「本当は言いたいことが山ほどあるのだが、それを言うと傷付く人がいるから、そっと静かに去っていく」ということに「人知れず思いやり」があるのかも知れないとも思います。

しかし、そこには真の動機を発見出来ないまま表に出てこないのです。皆さん、皆さんが入会式で受けた時の温かい友情や、感動を思い出してみてください。せっかく入ったワイズです。皆さんの夢を実現出来る場、人生における自己実現の場として、どうか永く継続下さいますことを願っております。この「EMC 事業通信特別号」を終了するに当たって、数々のご支援に感謝いたしますとともに、ご多忙の中に EMC に対する熱き想いを「EMC 事業通信特別号」で語って下さいました皆様にも、重ねて御礼申し上げます。

5. このEMC事業通信特別号を終了するに当たって、「3つのお願い」

2018－19年度を振り返って次期に引き継ぐ上でお願いがあります。

① 例会の出席率を高めよう

その1つ目は、西日本区を俯瞰してみますと、ざっと西に向かうほど、以前から、例会における出席率の低下を感じております。20数年前、日本区が東西に分離する時に、同時にこの広大な地域即ち「西部」が「西中国部」「瀬戸山陰部」「六甲部」に分割されました。その時の分割案に無理があったのか、それぞれが独自に発展する中で、西に行くほどワイズの本来の活動、即ち例会の持ち方に難航しておられるのかも知れないという疑念が沸いてきます。確かにワイズの活動は例会だけではありません。しかし、例会はその中心的な存在を占めています。

あくまでも私見ですが、ワイズは人口密度が密集している地域ほど数字的に、発展しているように感じています。即ち一声かけたら集まり易いという利点からかも知れません。例えば国際に目を転じてみると、インド、韓国、デンマークといった人口密度の密集している地域はメンバーを増やし発展しているようですが、一方ワイズ発祥の地、アメリカなどの広大な地域では衰退しているような気がします。国内では、京都市、熊本市、熱海市、甲府市などの地域にワイズはクラブ数やメンバー数を増やしています。数字だけがワイズ活動の全てではないことは自明の理ではありますが、会員数は活動の原点にはなるでしょう。人口密度の低い北海道、東北、四国といった地域ではクラブ数やメンバー数に苦労されているように見受けられます。そうすれば、東京、名古屋、大阪、福岡といった人口密度の密集する大都市はもっとワイズが増えていいはずです。都市型ワイズが必ずしも大きな発展を遂げているかどうかは明白な事例は不明です。しかし、人的資源は将来のワイズ発展の要素でもあります。それはサポートするYMCA自身の発展にもリンクします。人的資源を生かした増員計画が進められることは将来の課題と言えられると思われれます。人口や人口密度が高い地域が必ずしも大きく会員数を増やしていないということは、ワイズは個人的繋がりから入会数を増やしていずれクラブ全体のマンパワーに繋げているからです。せっかく仲間になったメンバーが中々馴染めず退会に至ってしまう例は多いのではないのでしょうか。それは個人的な繋がり、クラブ内での繋がり、成長出来ない点もあるでしょう。簡単に言えばスポンサーの個人的友人関係が、クラブ内(大きく言えば部や区や国際的にも拡大)での友人関係に発展出来るかどうか大きな要素を占めています。この人間関係はワイズ特

有なのかもしれません。簡単に言えば「人見知り」する人をクラブ内で円満な人間関係に交流できるように育成するするといったことでしょうか。その方法は極めて個人的で千差万別でしょう。中々馴染めず孤立する例はどこにでもあります。ちょっとした一言で傷付いて辞めてしまう例もあるでしょう。人間は本来にデリケートなものなのです。でも一方、「おだてりゃ、豚も木に登る」ということもあります。「あの人は、ワイズに入って変わったなあ(いい意味で)」と聞くと嬉しくなります。一方、全くワイズに入っても一切受け付けず孤立している例もあるでしょう。その解決策は一つではないでしょう。無理のない交流関係の育成は急がず、地道に進めていきたいものです。

私はYMCAでのキャンプリーダー出身ですから、クラブはキャンプリーダーとキャンパーの人間関係になぞらえて捉えています。個々にはいい子なのに、グループになると馴染めない子がいます。しかし、振り返ってみますと、そんな子の方が記憶に残っていて魅力を感じるのです。深層心理からは本当のことは中々言えず、本人が自分のことは一番よくわかっているのではないかと思います。ただ、その表現力が不足していたり、下手なのかもしれません。個々の関係の繋ぎ合わせがクラブ全体の繋がりになるということでは、本当に気が遠くなるほど時間と根気がいることです。

こういった精神的な育成がLD委員会にも必要でしょう。LD委員を経験した人材はその後ワイズにおいても、中心的な役割を果たしておられるような気がします。そういったことを各クラブ、各部でも出来ないものかと思っています。

一つには役割を分担して果たしていただくという方法。しかし、よく聞く例で「会長をしろと言われたらクラブを辞める」という方の存在です。まず新メンバーになれば、段階的に役割を果たしていただき、いずれはクラブや部、区の中心的な役割を果たして欲しいという願いは全ての部、クラブに存在します。それが本人やクラブ、部、区の願いでもあります。

人材育成のプランや構想は学校、会社、政治家でも、あらゆる組織で存在します。それは理事や役員就任における就任文によく聞く内容です。「世間では役割が欲しいために立候補しますが、ワイズでは役割が人を選びます。あなたはその役割に相応しいと皆が認めた人材であるから任命します」という内容です。私はこれは良く出来た文章だと思います。従って今後ワイズの宿命は、リーダー育成の使命がワイズにあるからです。

② 各部に常設の「新クラブ設立準備委員会」の設置のお願い

2つ目のお願いは、各部において常設の「新クラブ設立準備委員会(研究会)」を立ち上げて戴きたいと思います。過去に EMC 事業委員会の小委員会としての、「西日本区2000推進チーム」が結成されて活動しましたが、期待通りの成果がなく2015年6月末を以って解散となり、今一つ決め手を欠いていました。そういった中、入れ替わりに西日本区に、「ワイズ将来構想特別委員会」が結成されて、3年間の間、森田委員長を中心に活動されてきました。今年に入ってからはその活動は実働チームとして、各部にブレイクダウンされて継続されております。その中の小委員会の一つとして、先の常設の「新クラブ設立準備委員会」が結成されその時に備えていただくのも対策の一つです。小さな津波を「一身

上の都合」や「自己都合」などで見逃しているところに、現在のワイズに病巣を発見します。小さな予兆を予見するところに未来に向けた素晴らしい100周年の希望を見ることが出来ます。会員増強を目指す2022名の目標(MC事業)と、新クラブ設立活動(E 事業)を車の両輪と捉えて、ますます活発な活動が継続されますことを期待いたします。私は3年前にEMC事業主任を拝命した時に、いち早くお願いしたことは、「EMCはCME」というです。確かに新クラブをチャーターすることは喫緊の課題です。しかし、それはスポンサーとなるクラブの体力がしっかりと安定していることが前提となっていいます。新クラブチャーターを急ぐあまり、本来のスポンサークラブまでガタガタになり、共に崩壊や衰退した例が山ほどあります。まずは「C」であるクラブの意識と出席率が高く充実した例会運営あってこそ、次の会員増強(「M」)が成り立って、ゆくゆくはその発展形として新クラブチャーター(「E」)があるのです。EMCという文字の順序があるために、E→M→Cの順で実施していかなければならないといった誤解があればそれこそ大きな問題点です。C→M→Eの順で充実させる時こそ、次のステップへ進める喜びを共に味わいたいものです。

③ まずはクラブ・メンバーの安定あつてのワイズ

クラブの安定とは充実した例会をもち、安定したメンバー数、安定した出席率を維持することですが、併せて健全な財政も重要です。そういった安定があつて、次の奉仕活動が出来ると思われれます。またメンバーとしても安定した、職業活動、家族の安泰と協力、財政状況の安定、そして何よりもメンバー自身や家族の健康があつてこそ、クラブ・メンバー併せての安定につながります。もちろん個人として自己犠牲の上に奉仕に全力を傾倒いただくのも大いに結構ですが、長続き出来る活動が大切でしょう。そういった安定をまず確保いただいて、次のステップに進んでいただきたい。そこで、問題になるのはよく「ハチドリの奉仕」の話です。ハチドリはあの小さな体で山火事を消そうとしたというたとえ話があります。従って、奉仕は自分の出来る範囲で全力を尽くすところが長続き出来るものでしょう。

そのためにはワイズのネットワークを大いに利用してお互いに助け合いたいものです。ワイズに入って良かったと思える人生を共に味わいましょう。1年間ありがとうございました。

2019年3月31日現在西日本区会員数

中部 89 びわこ部 101 京都部 513 阪和部 119 中西部 118 六甲部 140
瀬戸山陰部 53 西中国部 72 九州部 299 合計 1,503名

以下次ページに今期2018年7月—2019年3月までの充足率を表示します。

[参考数値]対象:2018年7月—2019年3月(9か月集計)

部別充足率ランク

部別充足人数ランク

No.	部 名	充足率
1	六甲	149.7%
2	阪和	140.9%
3	京都	124.4%
4	びわこ	120.4%
5	中部	113.2%
6	中西	109.1%
7	九州	97.9%
8	瀬戸山陰	92.4%
9	西中国	74.8%

No.	部 名	人 数
1	京都	5,276人
2	九州	2,795人
3	六甲	1,779人
4	阪和	1,547人
5	中西	1,139人
6	びわこ	1,139人
7	中部	958人
8	西中国	485人
10	瀬戸山陰	449人

1クラブ平均

292.8人①

174.8人⑤

222.4人②

193.4人③

142.4人⑥

189.8人④

119.8人⑦

97.0人⑧

89.9人⑨

西日本区平均 116.7%

西日本区合計 15,443人 186.1人(1クラブ当り)

クラブ別充足率ランク

クラブ別充足人数ランク(年間例会参加総人数)

No.	部 名	充足率
1	金沢犀川	320.0%
2	大阪河内	237.6%
3	京都センチュ	231.9%
4	京都東陵	231.0%
5	神戸西	226.9%
6	神戸学園	222.2%
7	名古屋南山	200.0%
8	八代	198.4%
9	京都みやび	188.6%
10	芦屋	188.2%

	クラブ名	充足人数
1	京都キャピ	514人
2	京都パレス	493人
3	京都ウイング	476人
4	京都トップ	455人
5	熊本ジェー	423人
6	京都グロー	398人
7	京都ウエス	397人
8	京都トゥー	386人
9	京都洛中	301人
10	京都東陵	291人